

タイトル『 祭の晩 』

著者：宮沢賢治

出版社：講談社

亮二は祭が好きで、水色のしごきをしめて
お旅屋に行って、空気嚙犬という見世物が大繁盛
だった。

髪を長くした男が小屋の前に立って持っていた。

その小屋の中に男が「さあ、みんな、はいれはいれ」とおお
いばりでどなった。山の暮らしもきびしく楽ではないのに、
薪と票をお礼に持っていて、それを正直すぎてよかった。

亮二はやさしい心を持っていてしっかりと行動ができてい
ることがおどろしいと思いました。

みなさんもぜひ読んでみてください

投稿日 年 月 日

ペンネーム (本名は書かないでね!)

Xがネ太郎

年齢

13

仙台市 太白図書館 YAコーナー